

石巻市新蛇田地区被災被害地復興土地区画整理事業に対する指摘事項と事業者見解

項目	技術審査会委員 御意見	事業者見解	補正評価書 対応
大気質 (p.18)	<p>1年当たりの施工面積は蛇田中央と同程度としているが、各工区の工事時期が重なる時期があり、そのような時期の施工面積は広範囲になるのではないか。</p> <p>季節風の時期などは、一時的であっても施工面積が広がると住民に大きな影響がでる可能性が考えられるため、十分な配慮をするべき。</p> <p>【菊地委員：審査会】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の開始時期は各地区で異なり、順次造成を行っていくので、粉じんを多く発生する土工事期間の重複はそれほど大きくないと考える。 ・工事中は、防塵ネットなどの対策を実施し、周辺への配慮を行う。 	-
大気質 (-)	<p>新蛇田地区の粉じんについては、季節風が三陸道にぶつかることで影響が大きくなるのではないか。</p> <p>【山本会長：審査会】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・粉じんが舞い上がった風下側に三陸縦貫道があるので、住宅の多い南東側への拡散はある程度遮蔽されると想定される。 ・予測の不確実性が伴うので、工事中のモニタリングを行い、状況を確認する。 	-
大気質 (p.57)	<p>新蛇田南地区の南東側の近接部分に幼稚園があるようなので、取付道、仮設道の配置について配慮が必要である。</p> <p>【菊地委員：審査会】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・亀山学園みずほ幼稚園が、南地区の線路を挟んだ南側に存在しているため、搬入路の位置については、幼稚園への影響が小さい計画地西側の農地を検討している。 ・なお、粉じんに係る事後調査地点の設定に当たっては、上記幼稚園への影響確認のため、新蛇田南地区の南側の敷地境界に調査地点を設定し、目標値を上回る場合は速やかに対策を講じることとする。 	(別添)
大気質 (p.82)	<p>近隣事例の蛇田中央では、工事中の調査を行っているか。大気質の影響は小さいとの予測だが、今回事業と比較はできるのか。</p> <p>【菊地委員：審査会】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工中のH15～21年度にかけて、各年度の工事の盛んな時期と季節風の時期に事後調査を行っている。各調査結果は、環境基準を大きく下回っている。 	-
大気質 (p.57, p.82)	<p>特定評価書においては、蛇田中央地区の事後調査において、石巻常時監視局との差が小さかったので「影響は小さい」と説明されている。</p> <p>この濃度比較はSPMで行われたものであるが、宅地造成の工事で発生するのは主に粒径が大きい砂塵であり（SPMは大粒子をカットして10μm以下のみ測定されているため）差が出ないのは当然であり、この結果だけで影響が小さいと決めつけるのは危険である。SPMが肺への影響に対して、砂塵は目、鼻、のどなどへの影響が中心で、冬季の卓越風向に対して風下の「みずほ幼稚園」及び「青葉中学校」は特に注意が必要と思われる。工事中のモニタリングはSPMだけでなく大粒子についても実施してほしい。</p> <p>【菊地委員：文書】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダストジャーを用いた降下ばいじんの調査を行い、大粒子についても把握できるようにする。 ・「みずほ幼稚園」及び「青葉中学校」への影響については、新蛇田南地区の南側の敷地境界に調査地点を設定することで把握する。 	事後調査計画に粉じんのモニタリング内容を加筆 (別添)

石巻市新蛇田地区被災被害地復興土地区画整理事業に対する指摘事項と事業者見解

項目	技術審査会委員 御意見	事業者見解	補正評価書 対応
騒音 (p.95)	<p>事業完成後の騒音について、面的予測と高さ方向の予測（高層の住宅が建つところがあればそれなりの高さまで、低層の住宅が建つ部分は3階建てを想定した高さまで）を実施するべきである。</p> <p>【鈴木委員：文書】</p>	<p>・供用後の騒音、あるいは事業地の内側における騒音予測については記載していなかったが、御意見を踏まえ以下により対応する。</p> <p>・供用後、事業区域内の騒音レベルが最も大きくなる場所としては、「都市計画道路新大塚菰継線」に面する一帯が想定されるため、簡易予測を実施した（別添附）。</p> <p>（遮音壁の設置は想定しないため、予測高さは1.2mのみとする。）</p> <p>・当該予測区域には、沿道業務用地が張りつく予定となっているため、大きな騒音問題は想定されないが、念のため、事後調査を実施する（別添附）。</p>	<p>供用後の予測を附録に掲載（別添附）</p> <p>供用後の騒音に係る事後調査計画を附録に掲載（別添附）</p>
水質 (p.17)	<p>汚水の処理については、どのような計画となっているか。</p> <p>【山本会長，山本和恵委員：審査会】</p>	<p>・汚水については、まだ南側区域が設計段階にあるため、全体の発生量の推定は現段階では難しい。</p> <p>・処理については、全て公共下水道での処理を予定している。下水道の本管に流入された汚水は、市の北東にある浄化センターで浄化され、その後旧北上川に放流される計画となっている。</p>	<p>汚水処理計画に加筆（別添）</p>
水質 (p.32, p.131)	<p>工事中の濁水は、調整池，中江排水路を通じて排水することとされているが、最終的にはどこへ排水されるのか。</p> <p>【山本会長：審査会】</p>	<p>・事業区域からの排水は全て調整池に入るので、濁水が直接中江排水路に入ることはない。処理水は、調整池から下流側の中江排水路，中の堀を経て最終的には北北上運河へ排水される。</p>	<p>雨水排水計画に加筆（別添）</p>
地盤 (p.37, p.40)	<p>当該地域は後背湿地で、軟弱地盤であると考えられるが、地盤についてはどの程度のデータがあるのか。また、震災時の地盤沈下の状況はどうであったか。</p> <p>【西城委員：審査会】</p>	<p>・『手引き』では、地盤については評価対象外となっているため予測は行っていないが、事業計画の策定に際しては、ボーリング調査を実施した上で圧密沈下の程度や工法、プレロードの高さを決定している。（別添～：地域の概況にボーリング調査の地点図，柱状図等掲載）</p> <p>・なお、国土地理院が公表している資料では、周辺各所において-50cm～-63cmの地盤沈下が起こっているため、事業計画地においても相応の地盤沈下は発生していると考えられるが、正確な数値は不明である。</p>	<p>ボーリングデータを本文「地域の概況」に掲載（別添～）</p>

石巻市新蛇田地区被災被害地復興土地区画整理事業に対する指摘事項と事業者見解

項目	技術審査会委員 御意見	事業者見解	補正評価書 対応
動物・生態系 (p.144, p.206)	特定評価書に記載されているセンサスラインのライン外の場所において、鳥類等の記録が掲載されている理由は？ 【由井委員：審査会】	・評価書に記載されているのは、定量的に把握するためのラインであり、実際の種を挙げるファウナあるいはフロラの調査は全域で実施しているため、このラインから外れたところからも挙げられている。	-
動物・植物 (p.14～p.16)	今後の事後調査で新たに貴重種が見つかった場合、調整池を活用できないか検討してほしい。他事業の例では、調整池にビオトープを造っている例もある。 【由井委員：審査会】	・確認された貴重種については、保全対策を検討し、必要に応じて移植等を行う。 ・調整池自体は、防災的な意味からコンクリート張りとし、通常時は湛水しない計画である。ただし、事業区域中央の用水路は既存のものを活かし、親水施設として整備を行う。	-
動物・植物 (p.148, p177)	動植物、生態系調査の夏季調査が抜けているが、今後、事後調査で実施するのか。 【由井委員：審査会】	・調査は継続して実施しているので、可能であれば補正評価書に取り入れ、間に合わなければ事後調査報告として公表することとする。	夏季調査結果 加筆（予定）
植物 (p.199)	重要な植物に対する対応はおおむね適切と考えられるが、移植先に考えられているビオトープ公園の環境条件や管理状況が、これらの植物の移植先として十分なものを持っているのか、そのあたりの情報に少し触れていただきたい。 【中静委員：文書】	・コガマが繁茂しているが、石巻市の管理のもと、定期的な刈払いを行っており、池の周辺に湿性土壌が広がっている。 ・なお、移植前には、コガマの除伐を行う予定としている。	移植先のビオトープについて、石巻市が管理すること、コガマの除伐を適宜行うことを加筆 (別添)
温室効果ガス等 (p.72, p.222)	大きな面積が宅地化され、住宅、災害公営住宅等も相当数の建設が計画されていることから、全て予定どおり建った状態での環境影響評価も必要である。 試算で構わないので、CO ₂ の発生量について検討すべき。 【山本和恵委員：審査会】	・供用後については、特定環境影響評価の対象ではないが、簡易的な予測の実施を検討する。 (別添附 に掲載)	簡易予測結果 を附録に掲載 (別添附)
その他 (供用後の排水) (-)	供用後、計画地内の雨水をそのまま流すのではなく、雨水を利用する、あるいは浸透させることなどにより環境負荷を低減させるということは考えているか。 【山本和恵委員：審査会】	・当該地は地形的に平坦であり、元々水田として利用されており地下水位も高いことから、地下浸透は難しいと考えられる。	-
その他 (環境配慮) (p.6)	新たな街づくりに当たり、環境配慮に注力した事項を記載するとよい。例えば、供用後に太陽光の利用などを考えているのであれば、先駆的な事例として評価書に記載するとよい。 【菊地委員，山本会長：審査会】	・既存の水路を取り込んだ親水施設をつくる計画を記載している。 ・太陽光発電の導入については、石巻市では震災の経験を踏まえ、灯りと情報が途切れない街づくりが必要と考えているが、現時点で具体的な内容は未定である。当地区への地域太陽光発電設備の設置を電力事業者と連携を図りながら目指したい旨を加筆した。	自然エネルギー活用の方針について加筆 (別添)